

竹の魅力について

講師 竹工芸作家 藤塚松星 氏

令和8年(2026年)2月8日(日)13:30~15:00
(13:00開場)

会場:平塚市中央公民館 4階小ホール(定員200人)
(入場無料・申込不要)

講師プロフィール

1949年	北海道生まれ
1972年	竹芸家 馬場松堂に師事
1993年	日本工芸会正会員に認定
2012年	紫綬褒章受章
2019年	伝統文化ポーラ賞 優秀賞受賞
2023年	重要無形文化財「竹工芸」保持者(人間国宝)に認定

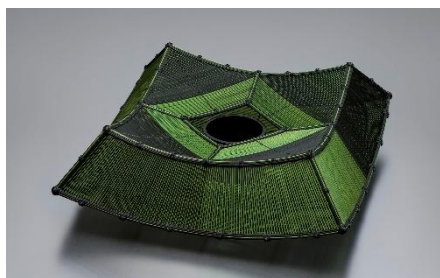


講演会概要

「今は昔 竹取の翁といふものありけり
野山にまじりて 竹を取りつつよろづのことに使ひけり」

これは皆さんもよくご存知の、日本最古の物語とされている「竹取物語」の冒頭部分です。この一節から分かるように、竹は昔から多くの生活用具の素材として使われ、身近にありました。また、日本原産の真竹(マダケ)は、神の依り代(神が地上に降りてくるときの目印)となる神聖な植物として、お正月の門松を始めとする多くの神事に使われてきました。

しかし、近代の工業化によって身近にあった手仕事の竹製品が石油製品のプラスチックにとって代われ、台所からもほぼ姿を消しつつあります。ただ近年、古き良きものや手仕事が見直され、復権の兆しが見えてきました。



彩変化花器「〇△□」

撮影：増尾峰明

私は、甚だ不埒な考えからさしたる深い考えも無く竹の世界に飛び込み、早五十有余年。出会った師匠との縁から深く竹の道に関わり現在に至っています。

今回は私と竹との出会いや、竹とは何か？また、竹の作品の制作工程などを、スライドと若干の作品をご覧頂きながらお話したいと思っています。この講演が、多くの皆様に竹の魅力をお伝えする機会となれば幸いです。

問い合わせ:平塚市教育委員会 社会教育課 0463-35-8123

この講演会は地域文化の向上、地域社会の活性化のために一般市民を対象として開催するものです。
どなたでもご自由に参加できます。ご来場につきましては公共交通機関のご利用をお願いします。

主催 平塚市文化連盟 / 後援 平塚市教育委員会